花暦八笑人二編

へ13
3094
4

へ13
3094
4

日本橋
三井堂

# 花暦八笑人二編下之巻

瀧亭鯉丈作

夢だかうつゝとも詠じゐる春の夜ろ〻ど死も。偽人の常

暁をあぢへど。夜ゐ日を継ぐ言。射明ケだまの〻ろ

ろ。光々ろる日ざゝよ有明ろ〻く。盆豆腐の麦まくし

ひぐ〻。眼七へ涙目をさまし。拡元のきゆるゆてぬぐ

たる畑草入をろ死ゐ世尾ろ煙の出るわどたゞまも呑。

吹のあがまる程嗟をゝ死ろあゆ〻人心付しゐや一サ〻く

おそのせ〳〵起ころ〳〵眼公一ぷく付く下りし。
さろぞう目ざめ極眼公の早起斗りハうんちんダヨサアく
今日ハ大変の日ざえんまぶ起ころく丸ぐあんまろよ。
ろうぞ。あまりのあつぢだぞ。ヨイそころ一服吸イ付く
下ッし。どんも目ぶ明ら極卒ナニうちやって置てよ。北ロ
たらと明ら丸んざぶたばいモウちんとよを延したなを。
左ヨウト来さてめんとくふをのだきろ〳〵ナ卒手摺ナ喜ん
りふぞ猿猴ぢやァあるく。モウ是で存のよハ一ぷくざう



ぢめくモウちんとトのやち歴員をきさふわちまちぢ左ぶぬけて
ぢを高ぶ毎て居〳〵呑七ぶひさの足ポッメリ寸ヨリ
と鼻の口先ぶ丸ぶ心よくふを卒てたぶ昏
つぶせぶ新平火だぶけとまるびろろ〳〵てるび新る一アウ〳〵ちんざく。
ぶふまるく。アく眼の中へ何ら這入さコリヤアたまらわんアく
のてく〳〵塾イ左〳�〳〳〳

さるだで目をさまし〜さめのをぞふ〜て初るものう「野」
ほまダ「アあそこふ。びっくりさく虫ぶおどろひさ
働をさまして居る知ぶ「イヤ〜卒ぶ〜。ぶぶっ
ぶうめ。今までほをきのてぶせんぎふうさら。ぶぶと
かきやアぶん。コレナゼあんまらぶぶ成さと
「アあやまんさ〜。ぶぶとさのでいね。鎌相
「鎌相ぶとんて考こと火待と間遠ちめ〜
ふく似ふん居る〜「そぶうあんナ高ぶいふて



ねぶ「イヤ有ふふあまぶ吸ぶく笑ふとんてプイ火
ふ粉ぶたぶぶョ。ぶまでいねふ。堪堪ふてぶふ〜
「ふそふ。そんあト了ふふしてつふハそふ。ッウ高ぶふ
ふ。ふ〜高ふ分ッぶ影ふふ。ふ熱イ省そふ厚ふふ
たふ。面ぶふとぶふ剥ぶめ〜「イヤ面の皮ぶ厚イとふ
石屋のヤシヤブシの「ヤシヤブシトハあんぶ「ッン菊石屋の息子
「ンあまふ。ぶ〜ふ名ぶ〜ウ「似名ぶハナ。アノつふを見ねね
紺屋ぶく半ふヤシヤブシのふぶぜ。アバ公ふ九石もつよふ

ろう。おまけに面ぶくろまるトジがあるて。なんぞ利ゆるのお
ゑみで。鼻の穴いらうと光りうたるとうくぶ。こで居しと鼻の
先こゝろ分いて。なんでも犀角と角三清猴こで米ま
ゑ。ゑゑくさこいよ面で面のいたくこんぐ面ぶころし
おまぐつくまで引こふおくぐ言て。おりろくもわ
そて其面ぶイヤつくおやアねく其息子ぶどぶくこのよ
のぐイヤサその野郎ぶつくふも似合わくぶ。ぶくつ形で馬
鹿ふのろひやつョ丸でアバ公サム横町の文字焼とうく出



後の師匠ふひぐくのろけて。おまふ取持てくまろとこの公
ぶぐろう。ぶぐおれぶ言ぐろう。行ぐでこぶと吾迎ぶこ
おまぐも男いろいぶアバ公と遠でて金満と言ふ
ろのひろくとよくおんで出来のくこコレ出ぬ毎ぶくく
あんまり安いぶく引なとおくのあくまくい八くイ知
いろイムシヤろくねくく。その愛ぶやアねくぶ言ふ
おろ一件ぶおのくまくせ出入レあたろ生ぶく。ぶぐくもくく
おろうでふねくろイそのぐ決ねくおまも其こまぐろう。文

字燒ら和ゝ人ごんとゝろけさぶらつのぞ行も云わゝ今ち
ごろぶ。ちんごろ間がころそろ[illegible]めのぶそつぐわゝ[illegible]
其笠ごゞ[illegible]ゝ袋ゞ古狸よ婦ゞ九尾の狐ごゝのを[illegible]狐でゝ
いろちやゝて盃ゝ一そまごゝ行てぶふーさぶ
一そまゝぐゝ[illegible]袋めゞゝて塩梅ゝ吞さんぶめんゝ廿人ちゝ
と汐人這入ゝくまゝゝまゝ。ゝゝぶとゝぶてゝぶゝ
ゝゝ。ゝゝ人先向とゝゝゝ。ゝゝ天のゝゝと。ゝ
ゝをたゝゝよゝて[illegible]ゝぶゝんゝ[illegible]ゝゝ。ゝ彼の



子の[illegible]ゝゝゝ。ゝヤゝのヤシヤゝとゝゝの[illegible]ゝ。
ゝゝゝストゝゝゝゝゝ知ゝゝゝゝゝゝゝだ
ゝとゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
とゝゝゝ。ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ
ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

め。人ゆへまつあるあのさろをさせやァがつく。いめ[呑]
イヤサあのさいろれわ。あんまり[左二]おりち〳〵ころちい
まつく。宮ちいろまつまれわ。義ちろぶぶつぶんありそふる
ちろぶ。ちろ〳〵あんまりたろいろひのわ〳〵ち紙。馬鹿長く
ひろちろつぶ。ちのりろくもわ〳〵そふサそまふちてい
あんとしく天ちまちやァわ〳〵ろ[左二]さまぶサ是程の日和ふ
ちぶ[鉄]ァ形武公ぶ吉紙。啖ふとしふもふ〳〵紀サ〳〵[紀]そりやァ
ちをを[左二]ちぶ。今年ハ汐ち[左二]鳥ふ風帳ぶ[左二]ちるめョ〳〵[卒]ぶふ

つぶく大ぶとふぶ〳〵をさろとろつぶ[左二]コて人ぶふ〳〵て汐[白]
ふでもろつぶくとわ〳〵。朝ッぷ[左二]ろつふ〳〵ちる廉どもぶぶ
[眼白]汐〳〵這入ッぶとろく。金肝ふかちるめろ〳〵[左二]ろてろぶん
ふちろ〳〵イヤハヤぶつも〳〵。家敬まのろりい言ぶ。
夜長紙脊頁〳〵起〳〵ッぶ[左二]ぶまのハ。ち荒ぶ蒲鉾ふ
屋ふいろあぶぶァ[呑]ちぶちのろちて〳〵[呑]蓑下坂二タツ胴バタリ[左二]ぶふ
ちろくそふ味くふ人わ〳〵。俳カ紙の盤ち坂でちろて
いろァ。サァ〳〵ぶんを一ッふふ菓ちぶ〳〵。ヤレ〳〵ふびんや

琴通舎
英賀

今朝ハ弐貫チウの米も出ねへナ。香ハぐぐぐぐぐぐぐぐ
いつぐ〜ひとうづも口のへるもよろろ〜チウ〜と
そのくらいナ喜ハくはうあんんざ香ハくくくくんざあぐけ方
位
くらていぐくくおりねへ〜あんまい面白おのちよく
もねへ〜おるうてへ八〜〜いく〜。みがてへ〜あんの有
がてへ喜ぶあるものぐくんでも人の口悪て喜とりへ也
有ル
うるさひがやァが坊ハいてへダヨかんハ者ろく
味ニ
イヤそまへさてあた。なんと二三日服をうるねへくへ心
ナ

持ダが腹痛〜ふそ粥ハ雑水と者ふでハ緩へ〜ふろろう
ぐ〜。ろくふ服といふのの成くハねへくうう。お冷ごだ〜〜者ろう
てうどいて一きき者うく〜眼公早くやらん〜〜ろう〜も
狂ニ
狂者ふ。おまふこ子人さたくくらう者ふ。押〜者
呑公ふて下ぐ〜〜呑へころちハ座敷ろぐぐ。平ハ忘も
角も今日ハ大切ナ分ざ。アバ公やらう〜〜武方迎も
其通り。たく唄こて敵兼茅でごぐろ〜ぐろう〜く
火ぐたろぐんて居ろうぐ。いるのんぎやァねへそんたろう

名ぞ名ぞ出の一よろろく。孤ぐらくべエ。こんな一ッ面ゲ
ッ。三人り勝ひとり負け抜と。ぶる者を三助と云ふ。
云ふ〜ひとりでだまふ云ふ。あんまり可愛そうだ
ろう。三助役紙二人り二番人ふ一ろ〜〜サア三ッ打ちだと
一夫きこしやろく。ヲヤ左二さんナゼ見てくれる一ろんのあれ
ハせぢごといふ。ム家の主ざめのを一何ぐ〜あるでも
内緒でも。用捨ねえ。ひっ光ろく一へこうげまの夜
あるぢやアあるめ〜一眼七あんまりあるぢくと内びらを
きろ〜と居ふ居て申ふねえろイ、一サアるとろく
一左二ろさけ ねえ申ろらざまア。ろく〜サアこん。アヨイく
ヨシヤサ。まて〜ヤアく。卒八眼七が鉄炮であるこん
のまつぶざ名主。ヤ 奇ぬく一内若旦那なぢろふ
メ六助どん早く頼ヨ一サアく〜こうちんお風呂入って
こうふナア呑公一こんあぢいろくこうちこ母入てお呂。
ひろ 主人ハこうく来てく古屋紙あげろヨへこい仏ねぢナ見か義
まこざろふゆて楊枝をこう入汲一眼七
ゆてけ入卒八ぐんこうむひこて一いまく〜いめれ母入ナア一卒コレ

ふんさう〜本もあげぎつねいきやアごろ〜ト小さたらぐ〜ふあをつくひ
辛八八本をあげてそ不成 隠 〜ふろくまきまの人れ人桂まごぞ〜づブ
さろ眼をハろつのをこ結ろ
生まあごそふぐ焙って斗り居るハあんと味噌をさる
もめんごうごろう。醤油ぐ水ぞうきのとあちうそう。
な茶もおーあろ〜一辛ちをきまあ人ごあつさうちそいくめん
ざそまとよろうのとらつ人あつハ人せこ人斗りこ一ちぐ
わ〜そまうぐ。ちう紙どうさうろうくぐろう〜。ちうぞちハ
あ紙 鰹節
ふ伝ぐごろろろ〜ノ一辛ドレのちちとたんとでもらく雑水ハ

うきとうのぐつ。ヨウトろろ〜く〜一ゲンヒイヤモウふまうえゆハ
ちのまうをこ又いぶうだ〜こえ。ふ又火吹竹ハあんごろう。
さうぞう役ふたね人大赤柱と遠く。吹竹の屁の穴
ハ。ろうたけちいさいぐいくめんごういぶうぞ〜一辛菜
をきうぐ豆。ごりやア洗って有るうよう〜。アッア ふまぐ
さげさう水仕業。ア浮世ぐやナア。ふう〜えハあつま
合方〜碁を入まてく黄て人一眼ごろう〜ろうぞう熱ちア信
が有斗ぐ。そまふちても大相いぶる京ぐぞ。の人服を

ゆきてくるまでよろこぶ〳〵ト石紙をめちぐちぐふこ紙
とりめを入くくたまつて
眼七「幸公はくるまでなるゆきぐぐよろろうう〳〵そよろろ〳〵く
アツ〳〵く水ッ鼻ガアくあぶねく〳〵ヨット眼七はとうちあ
ぐもろふあらぶふ多り
と二タ目ぐ「幸ヤア大へん〳〵変こりゝをゆくぜ〳〵あれも
湯の中へおとした
きろくさけまで間ゑ合ちあんざ「幸きらぐとくものかく
とぐ拵ってまぐいふ「眼そふゆまぐよろくさが其形ふ及こ
でんぐどうも尚差邪魔とハらうわくめんざ。おまもちぐあう
ちゆまの方ハ素人ぐ。イーぐふまるあう仕方ガわんぐらあ変



清〳〵ぐア折角こゆまくて。是その変ぐ拵らまもあ変
「あんまりぐそちきる変もわくぜ。そーてこれをあく清
〳〵ふゆせうぐくくくハぐふくもきすみちけく
眼「ナニちの変ぐ扱の方をくらくーナ。そのくりまと
ガい「くくまぐいう中ガ紙うあるものう「眼七くまもさう
さぐくハいふ時ハまくうぐるぐくくるくふあう
ゆうく〳〵
彩ガ変まていけまぐ「幸ゲエくあふアくくもへぐく
ゲウく「眼七そんわくふ。きくるぐくくまる変アわく。彩

母ちゃ　わゝ男さ　だるな　変とらん　形母しいの　形母ちゃ
わゝのとゝ　張じゃ　わゝ　虫ぐ　きらうのごう。　住こ方ぐ
わゝ　ちゃの　ぢゃ　ちゃ　ぢゃ　ちゃ　ぢゃ　ちゃ

おのく　ちゃ　ぶ　へ　せ　ろ　ち　ひ　く　ち　ね　ん　き　ま　ぎ　ち　ち　ち　ん

へ　ち　ね　ん　ぐ　「隈」そ　ま　ぎ　と　ろ　て。ち　ひ　め　く　ち　ん　ぶ　ま　ぎ　に

ま　ち　ま　ね　ん　「序」こ　ち　ち　ん　ぶ　ひ　め　く　ち　ん　ち　ね　ん。ち　ち　ね　ん　ま　め

だ　と　ち　ち　ち

ねるのよ。そんなのちどふあるものう。
もらて。別ふ石のいるまでハ有るめく。茶食とあ
ぶ火式焚ばいよ。モウいのうんなトンチキごっ丈ふ
ぶき木ッぱ一ト処さいらづて半ねてよく焚さ
ものをいっきちつとまるこ一ちきる涌ト又をきつける
「いあたやぶ」まつるもざが。ふらいぶ〳〵メゼそん
ぶが利ねえ「ア」ノコくうちまつてあるこぶ。ふらう
かっまつて。仕舞ぶらく。マアやのはけよんきうち



きまあ一ハ湯もぬるむざらう「香」そんく。さるそらいうわん
ちつぶ。アノふきうぶんぶんぶんみとんをきうこと。蓋
とうやう。水雑ふとやうさん。出来く「ぶ」そのいハ
まつふ気どのさうん物〳〵中人すんを入きさ「ェ」。
中へうエ。茶とエ辛ハとれと茶ハ半ぶだのけ「序」そんか
マア茶ものやうふりのみ「花」んのとうさ拵るすのが
ちく。ひ。サろく眼ふ茶ものう。ぶきるんう。そ七ちんうぶぶん
ぶんふりうとやまく「ア」ぬく物陰拵ぶうんく

「あぢ。ひとく ひとく あぢ(熱)さうなものにひと雫(少し)ばかり(辛)ぶ
ざ。こんながうるさくてゃうく ゲエイ ゐやうげんかまんざ。
ゲッく(左ニ見)「何ざ。人のあとを喰ふそびで ゲイく ふさと
ねんぶざ(辛)「へこゲイぐるねっきるくらんよくぐふまを
喰ふぐ(左)「ぐふまをいが何ぞ きるる人ものの「眼ぢも辛
ぐるもまぜこうるる人「イヤく 大きくひぐ。人の喰ふのと
えんのもるがうるい「ナゼ又なのゆるふきるかるざ
ろう。あく ひゝゥ「あぶ(辛)なあサまらんるぐ。ぐるの 鼻を

ならく ぐるぐる(隙)「コウく だまろうるく居ぐそるぐト
辛ハ(ぶ)敷ぐる「ぐまあんとるふ水ッ鼻を洗く たるぐおらア
ぐるくぐんるくるぐ。ぢキ自状ふるんぐゃアくくん
だの紙ぐるをぐ。ゲエイく「のやちゃぐんぐゆるぐ。
見いたまるねく。サアく 絵ぐ。
眼公ろ辛ハろ「ぐるちふ赤くもきるねくふちる人
ねく。ゲッ。くたまるふねく「眼ぢ(ゆり)あるをあまぶたを
あんざけまぐ。まるう辛ぐ。又雷(ちん)鳴ぐ。ねを

洗ッさ和をたゝ〳〵こんざうう。実ホきこねゝ麦こ
きこねゝのゝ一ヤアく〳〵大くんを麦紙いぶどりでうぬ
らん喰ろねゝのまく〳〵ひゆつぶきこねゝそゞゲッく
一生なかきくわど海がゞゲエイくペウく〳〵一ゆう種ぶどり
で。塩がちとかゝらつく。白ひがとろとろつき
ゲッく〳〵一ゆくこゝの白ゆを眼ぶが鼻紙の白ひぶゞを
ぶ〳〵たうらゝ甘人笠ぶ一ヤそく〳〵まるうみまを入れ
ろゝそりやアスどふ〳〵て入まゝゞイやく〳〵変ゆくゞゞく

ちんゆもいゝぶゆゆくく〳〵ろゝ。ゞケばきくわど。ゲッ
海がゝゝゝ。ゲロくく〳〵
ゝ入ゞゞゞ

琴通舎　英賀

東雲の
鳥も鳴の
きさらぎ川の
水ぬるの
生るる

山谷紙雲のおたきさんのゝ如くなるてのひら。引掖のあん
たのをのゝあゝつゝ和まろゝ。そこゝ和ゆたぐ婦人
をくろくつまゝねゝろ。ちぐるさんを和ぐ連てく
行ゝ。今日はあまも假成ふ彈ケそぐけまど。二挺ぎ
と恵いて一序一面姓の方かたひぐひ夕アきまろたかゝ。
のゝ和ゝ右ゝいてゝて。さやく出るけよゝ一ゝアバ公トの
立廻りハぐのぐろゝ一イヤゝこまゝハもゝちゝゝぐよゝ
ろゝ。ちまゝ和一ゝ出ぐ三ゝ三ゝらゝい裏ぐわゝてゝハ見あ

ふかんが分いくゝろゝろゝ一あのタテがの芸ひよろろ
てゝ。ゝゝがるゝ。ひがむぐふるゝナ。のまゝくひゝ。ひぐを表
ゝろゝも大いぐ死一ゝ右ゝくゝちゝ人ゝゝ。サアゝく和
宿へいりのゝ早く出ゝゝ。眼公ちぐるさんを和んで
まろゝ。ト記をさぐあゆてゝ変
大ぐのの霊ふ霊死その年ふ月ゝのの霊の艶景を兼
後へる隅田川。げ実ゆや振ゝ和ん月。ゝ人ゝ粧人いゝ
もさゝ。和の代ゝ仕ぐ。伊勢屋の裏ぐのの

内田の女房ハ一この嫁。鬼を見るを落て命のせんさく。
加茂兒男も操女も。死ふうるて其人ハ。まこうう
さまて出る人と。郷ばたひとる陽田堤蔭を歩りの
人見て。嫁の従事ふことをくぶと。彼の僕の人ぐ公
て期一たるふ分ケの亜う。アバたを帰ハ侍のあらん。
呑七分め助右人ハ後月の心ゆくそまの義とぶらい
て帰る一ライく呑公ろ人さろしろくしいく多奥
極ハ右ひろひざナ一呑ろんふありやア奇麗ぶイや大相ナ

女中だナア。奥極ハ日傘でかろくさろたう見せ
ハ人ハ。おだつでのあざ。ぶ呑心ろぶちんと見せく
ひさまぶいてナ一眼取巻くいるあハぶまも一下粒ろぶ。
アッア。アて。ちひのんざ。ろるわど人ハ武士ろぶ。能成ハ
いやぶふれとふ川柳があるけまぶ。女ハ武家方乃
ちろぶ。ぶふもさろたうちて一呑そのさろたりといふ
ちぶ。ちろたうころ。ちぶさろたう。ちね人ろうのるぶョ。
奥女中とふと。伝ろふ身面ちしひろう。かく別ちんこうぶ

あるめぐ。アどまもく中間ぐ。ある沢山らしい代。ねめ
ご眼セそなよ山ちのようけうえん。さそでいたしの出るうがろう。
サアくあとの方ハチトむろうひぜこりやァ変こみふ
常と換をさろぶ人たのぶ蔵ごえくく来さョヤくく
あまくヤ尾こ紙。あのいつごうるひお局のトいふ形ご
香
うきアねく右ト左りで二人で出人といふ人形ご。
ハアア秋美ぶか小休とえくうるえイヤそまふそうトアバ
公ハぶちへいろさ眼今ようめぐりの栗屋ふえくさぶ出品

まいどこをうろついて駄ごろう。ぜんてへらを一ッ
取ふこよあといろふ先へ来く者あり。春へ何サのろ
公もあの形りで乃くぶれるをせ月なぶつくよ。
眼へそあき洲茶の通りうろう茶遠ようさそもつう
かろうナア。春へイヤ今日の催ハさ月とちねるごろう。
のろまへうあくひんぶるョ眼へをふよ。ア、者ち者ち
ぶへのうもがよ月ほどつくいぜ。おんより色氣うねへ
ナア。春へどちしてもねへのろ茶ごうゆけぞい。イヤ

かんよは此方へ来てハあんまり来ると
ひとれて ヲイ。うろ〳〵来て。眼へマダくヲイ。もおしつけて
いろ〳〵奥へ来ハあいまるすもそうろう。吞へ何の見とこ
ろがギヤマンの船ざなり。くしゃ〳〵アバ出と一ツ出
ちゃ 茶でも吞う。ト又ちゃ〳〵立もどり 吞へイヤ見へアバミ進
さ奥へ来てく。アバ〳〵ム、吞へ七ハア出同助も同乃おめた。
コリヤア面白も花見ろ。出目へヘイ 左様でござり
ます。あまと様もお花見なよいこッ来ありまし。



此程此花へ風さんそろ〳〵来出しまもう。
ごもっも花でござりまし。アバ〳〵コリヤ見ろ〳〵武士を嘲
ろう来ろ。吞へイヤどもいさしまく武士ハてう
ろうもハありません。どもいろを禅宗の坊主
でどがなるそもでござりまし。勿論背軍せこと
時分知ろうろハ来ひまさそもぞ。肖へ来
只今でもあまさがおくぎり拙ばしまもと。
ろく〳〵よハなりまし。角芳の字が付ろ。

おがうゝと醫者もヤ男。ゴザヘイヤこの用らハ
ぢうく。全ごん。もとゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。捨かゝん。ト。力へ。ゝを。ゝ。あゝを
全くの。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ

おやまさんやおやうぶえんぎョ。あれぞこのよ婆「イヤ
ヲヽこゝまでゞ。あんよもちろん家ぶけんのんざ。ときん
ゝ休ませ年ゝ。ちりやうぶんでもあつねんぞ。コレ
ヲバ公いうげんは解ねへこゝいらまでやきんで居る
のゞ困りきるかナバ「コリヤく婆ァかまんあく。あ人
ともかくゞこゝまでト「モシく旦那さま
六十おありまさ婆ァが。見れくもと合せて物まんぞで
ゞ了簡をしてやさうす。爰ゞりものゝがたり

まゝこと。今日うゝ歳暮を休まねばありません。ハイ
一年ゝいろ〳〵の花の三月でゞざりまも。ゞ〳〵いろ
さまゞて了簡のかゝぬ奴あるもゞ。血をあやまるさべ
社家のけゞ色。たもけかふしやり。かれゞ。菓屋の
婆ァゞ出仮ゞ。命ゞ半りのいたをけくムのやうゞ
命やうゞかうゞ出やゝ。いゝ後。爰爰情を乱。呑ムシ
あの面をゞさゝし。ゝ時手をゞりはいつゝ
ゞ。ゝ。ゝゞ出仮ゞなんのゞざろふ。あん

まりめんもらでおくい。このちやや茶屋が松ノ尾をでこ
りのとらめへた。出目ムヽそしてしだアさんが中氣病で
と称ひく。ハ松ノ尾が中氣よめんでとおどるへ。盛へイヽサ
めんでもうりあめりくく並ものせへ。あもが金元をあさ
くうふくそのちへ逃ものせんア、新ッこん人きてご。
ト又立ちくッて押出出て隣田境ちちち数多人を
あつれば今夏しやれもあふてなり少どくくくくされば
呑へのめへまは婆アさナア。そしてあのやろうめへ風
巻のいくまどくうくもとくくくく

琴通舎
英賀

きりけ〳〵と
もゝまる
人をもゝま川
花ゑんの友へ
縄乃まゝ楫

アバのもろあるまきとるくさせてくもろうぐんねへ。
出目へイヤくそんあるものをいふと左次さんが又いふぐ。
それよりのろまいどをとうろつついて居るぐろう。
あ知らくられがいろたじめもいる時らぐよ。秋
を繁の方へいろく飛くんあ。ト あへハ秋葉たへいぐー
地獄よりあるぐ
あ位の多りたぐ人をしく集りいる元すぐとを者の人押ろけ
こもいりこれがこいろよのろ松ハるるふよいまーめられぐば
伯中百姓衆 出目へヤアく和どれ同よ魚くいるぜ。呑へこ
いろをとるく
よどふいふ理りあろうあ。よりや次人もしハ

あ人ハ縄をうけるこんねへあんれ
多ろ助ぐろくきをぐろく連てゆくべエ。出目へどん
ざるとふいふ武弟方ぐア。ゆろくあるるをしく
ろうをを天井ろくつねへ性よる居
あぐすりもろくろ者あるるもち寄に
こんくふ居ろうぐへアバ三の侍ちぐろハマヅ
ろ井ぐくんよぐ人をろく出目へモシくぐめ
私をえ知りあくめでぐりあをぐどふいふ

この代ひ様よりあぢはひくるしき色のでござりまし。侍へ成程
さつまの芋は者の遠れる。香へイヤ豆連とやでもござりませぬ。
一つ丸ん丸ん様してありまして成ん様でおらもよくもい
でもなまるこの。いくさ事もいさつ皆おさつ
まへさりまし。侍へ成程丸ん様の様ぢやろう。香へ成程で
ござりまし面白も似合ぬ色事遠ぢ。侍へ成程色
きちがひ事遠でもこの。香へ通り侍様のお供
さき。先へお附の女中まへ出りのいさつ退屈しこう。



のやうなものの形尾張ぐまりき様せきよ。侍へ
切捨ゆをあるべき所御様のお伺ゲかうて退
屈しこうへどもおとと第よりのまへく。香へこの色へ立
さるより色色抱山のさまこげよおれ成お色色を
ゆくく山通り。香へよりこげく色ぢや。出目へ芋ぢ
さやあらもの手方の奴でござりまし。さうあぢら事
遠のよ成どのでおゆるしあさつまへさり侍。
侍へイヤサ山方ゆるをんなれども縄をとくと又女中

方へ行ぞ。とて。ぜひ。雅なく。あ海りきへあ。
いそ〳〵てある。山方も。逆。しぐ。ぜ。
あ。ち〳〵。是。私。ら。取。あ。へ。け。く。
おぢ。ま。ハ。さ。せ。あ。せ。ぬ。方。ど。ち。ら。
ト。あ。人。ち。ら。び。れ。ば。勝。よ。つ。い。る。ま。う。め。り。ち。人。
こ。そ。鼓。と。縄。と。ち。ら。あ。人。ち。ら。ぶ。ち。ら。れ。る。者。
小。蔵。番。ナ。ゼ。又。ま。る。ま。つ。こ。く。ら。ぶ。ち。ら。の。ま。へ。あ。ん。ま。り。
う。つ。ら。ぬ。ま。ら。ま。ら。ま。ら

ゑんとるとゝいつてころうが何のきれいな男ごと
いやものゝ。おやつてきゝつのお男といつてこのごろう。
出目へ　ゑんとゝいつてこたどまつねへ宿屋ぢやく
おやつてゝ。いて浦賀よりゝ人がつたゝろまくもりじ。
船ハ今川丸ダヨ　日達やんぜ。のろへやつてんごく。ト是より
出目　助吞七ハガーリ下りのろ松いろくのそこどをもやだり
ちゝーまをまへ上り三わがりの上り場へんをしくまる船
ようくるうちくゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ちゃくゝ引ぎとれば、ぐゝゝゝぬけく、駕へヤア是貴がぬけ。
又ぐく私はいまのうちぞうきゝ
ト自とあるうちせくゝ、エヽそれいうぐゝぐヨ。そもくゝ
わるのり出せ
なんかとゝの前を出ぐゝい。きいさもくつろめんくらぐせん
ちゃ
ゐくゝ。トあせり出り私申ぢそもよをまめくゝ
のろ私を引エテいろくゝいわみもるアバきゝめい
駕よゝもくゝきろくもろ私へ左へどめぐのろ出きい
駕入レト共中へくぐ出せ
性ろ。のろへくんぐあんじかくんか。なんともねゝ。
左へあんともねへくゝもるめん。もるもよ門ほど
のん
長ぐろゝ。ちんぐゝん丹ぐもめろゝのろへンくぐもの

ぐよちんぐんくんでもるめん。是と知ッくゝこと
せうをもつくゝもればよろゝ。出目へハゝーイゝく
ちゃもれぐ出ろ私ぐいくゝのいるアねへ。左へそゝく
あ門か拍ぐ。どゝさうり長延で長くせんろかゝぐ
ちゝとめぬもねへくゝ。呑へそのうりかゝこ
ちゃせういからうよちゝろう。出目へそゝぐあれぐ一を
うくんぐ。チト中通りのうッ込めくぐ。ちへ私へ花
かゝゝいとゝもるそ丹よ。ナゼのろ私へ濡かろゝん。

アバ〳〵性格よろこべ下品へ成よ立てるぞハヤイ。
ヨクヽ〳〵ハヽヽイソク出来ル。トまたハ大ろうひとゝなり
たゝふの振を形よろしく係めて終日長者し好の
弱句を絵しつゝ洒れて へゞそうろう

八笑人二編下冊終


揚太真遺傳
精製桐の箱入
處女香
一廻り
百二十文

そもく御所の業の幸朝の新の姿の姿とうるはしく
して生まれ育ても出来ぬこと絶なきを自己細なるゆ能あり志ひ
るゝ〳〵し新の業世間ふ多く自彩洗粉化粧水も油業成製して
はなことゝく新の業にてるるおりむしとゆ能書ふもうしたゆ能とゆ能の書付の
事分も油能色伝々し出板表と出産とも久しゆめ上ちて膏油
あり〳〵べきのるんゞこまへちゝく去粉ふ新業当る業うとゝれるく長一段
用しるゝ上ても忽ちふ油能の形まる粉業当り一廻り用ひるゝそ出新の

賣弘所

[illegible]

[illegible]

[illegible]